

コロナ禍はスピード勝負

「徹底的に市民の声を聴く市政を掲げています。1年が過ぎた徳永市長の取り組みや事業計画などについてインタビューしました。」

「市民が真ん中」の市政を現場に足運び汗をかく



▲四国初開催となる自転車競技レースも10月に開催

▼今治港開港100周年のイベントで、航空自衛隊「ブルーインパルス」の飛行が決定



の悩み相談や法律無料相談の休日開催、オンライン相談なども開始しました。

記者

新型コロナウイルスで状況が刻一刻と変わる中、スピード感のある対応を感じました。

市長

世の中や価値観が激変する現在、スピード感をもった対応が重要です。私もじつとはできず、朝7時過ぎに登庁することもありました。1日で世界の状況が変わり、情報を得られるメディアも多様なため、民間のよう

記者

そうですね。最近マイタウンでも移住者の記事を掲載しました。私たちも取材して様々なところに行きます。

市長

大三島に移住した方ですね。移住者は年々増え、令和3年は令和

記者・竹葉
まず市長に就任以来掲げてきた「市民が真ん中」について教えてください。

市長・徳永繁樹

誰のための政治なのか、誰のためのサービスなのか。市民に必要なことは何か常に問い続けました。人口減少、過疎化など問題は山積みですが、

市民の役に立つ市役所を実現するために掲げたのが「市民が真ん中」の市政です。市民を向いた市政実現のため、質の高いサービスを提供して

いきます。あらゆる相談に、各課や各種団体と連携しワンストップで対応する「市民が真ん中相談センター」を開設し、心理カウンセラーによる心